

# 価値あるロータリー活動を を続けていくために

対談

第1回

「親善と平和の確立に寄与する」ことを目指した、国際ロータリークラブ。先の見えにくい社会の中で、どのような役割を必要とされているのか、国際ロータリー第2520地区ガバナーに就任した菅原裕典氏が各界の第一人者に聞いた。



宮城県知事  
村井 嘉浩氏  
1960年大阪府豊中市生まれ。防衛大学校卒業。宮城県議会議員を経て2005年から宮城県知事(第3期)

2015-2016年度  
国際ロータリー第2520地区  
ガバナー 菅原 裕典氏  
1960年仙台市生まれ。2001年から(株)清月記社長。7月1日から宮城、岩手県の第2520地区ガバナー

菅原 ロータリークラブとその活動について、どのようなイメージをお持ちですか。

村井 異業種交流や社会奉仕活動を行う団体は、各地域にさまざまございますが、その中でもロータリークラブは、歴史も古く、国際的な知名度もあり、どこか格式の高さを感じさせるところがございます。実は、私の父も、大阪のロータリークラブで活動していたこともあり、私自身も非常になじみの深い団体なのです。常日頃から、地域に密着した活動から国境を越えた事業まで、幅広い活動を行っているというイメージを持っておりまして、と言いましても、詳しいロータリークラブの歴史などは分かりません。

菅原 日本で最初のロータリークラブは、1920年(大正9年)10月

20日に創立された東京ロータリークラブで、翌年の1921年4月1日に世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟承認されました。

その後、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーを脱退しましたが、戦時中も水曜会、木曜会などと名前を変えて活動を続けました。戦後1949年3月に復帰加盟しました。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになっています。

日本国内のクラブ数は、2012年5月末で2292、会員数8万9228人です。国内では34地区に分かれ、7月1日から私が1年間ガバナーを務める第2520地区は、岩手県と宮城県がエリアとなっております。



菅原 会員の専門分野を生かし、それぞれの地域の特色に合わせた、多岐にわたる活動を展開しています。とくに地域社会に根ざした社会奉仕活動は盛んで、地域ニーズを踏まえ、特色のある奉仕活動を実施しています。例えば、環境保全に配慮

り、80クラブ、約2300人のメンバーで構成されています。

村井 具体的にどのような活動をなさっているのですか。

菅原 会員の専門分野を生かし、それぞれの地域の特色に合わせた、多岐にわたる活動を展開しています。とくに地域社会に根ざした社会奉仕活動は盛んで、地域ニーズを踏まえ、特色のある奉仕活動を実施しています。例えば、環境保全に配慮

年以上の歴史がありますが、まだまだ理解されていない部分がありますので、2520地区80クラブ約2300人のメンバーが、今まで以上に地域社会から真に求められる奉仕団体になるために、身近なところの活動を充実させます。

地域社会が住みよい街になるよう生活者にメリットのある事業を心がけます。会員は職業人でもあり、仕事を通じて貢献していくことを基本に、より働きやすい職場を提供したり、家庭に置いては家族愛を実感できるような活動をしていきます。村井知事は、会員のロータリーに対してどのようなことを期待されますか。

村井 我々も、行政として県民のために一生懸命頑張っておりまして、行政ができることも限りがございます。ロータリークラブのように、地域のニーズに合わせてその地域のお役に立つ活動を幅広く行っている団体がそれぞれの地域に存在することは、行政としても大変心強く感じています。東日本大震災時には、ロータリーが、多くの支援活動なされたこと聞いております。

菅原 最近では、東日本大震災の記憶を風化させないよう、被災状況や復興の現状について実際に現場を見てもらい、防災意識を高めてもらうなどの取り組みを行っています。東日本大震災からの、創造的復興」を目指す宮城県と岩手県の復興のお

## 10年先の進化した街とシステムを作りたい

—— 村井嘉浩宮城県知事



して山に樹木を植えたり、市民の憩いの場である公園に植樹したり、地区やクラブ単位でチャリティコンサートを開いたり、養護施設や老人ホームへの訪問、支援をしているクラブもあります。



ロータリークラブの復興支援プロジェクト(千年希望の丘植樹祭2015)

会員には、様々な分野の専門家がおりますので、「何でも無料相談」を企画すれば、弁護士、司法書士、建築士、医師とたちまち相談員がそろいます。自分の職業経験を中学生などに話して職業選択のヒントを提供する「出前講座」や、会員の経営する会社や商店に小学生などを受け入れ働くことを体験してもらうなどの活動しているクラブもあります。

村井 会の特性を生かした多彩な活動をされているんですね。菅原さんは1年間、どのような事に重点を置いて活動されるのですか。

菅原 日本のロータリーは100

役に立てるとしたら、どのようなことがあるでしょうか。

村井 私が「創造的復興」への想いを強くしたエピソードの一つとして、阪神・淡路大震災当時の兵庫県知事だった貝原俊民さんから聞いた話がございます。それは、震災直後の時期に、貝原さんが、「阪神・淡路大震災の際は『復旧が基本』というところで、神戸港の復旧を行ったが、釜山や上海など、非常に成長するアジアの港湾との競争関係において、昔に戻しただけでは、なかなかうまくいかなかった」という趣旨の発言をされていたことです。

つまり、震災前の状態に復旧するだけでは、その復旧に10年かかれば10年分周りが遅れてしまうということとして、さらに10年先の進化した街やシステムを作り上げることが真の復興となると感じています。

だから私は、被災された方々の一日も早い生活再建を最優先としつつも、10年先、20年先を見据えた「創造的復興」を目指す必要性を認識して、震災復興計画のもとに、これまでさまざまな事業に取り組んできました。東日本大震災から4年を経過した現在、気になっているのが、震災の風化です。まだまだ復興も道半ばですので、「創造的復興」を目指して、ともに頑張っていきたいと思います。

菅原 ロータリー会員一丸となり真の復興に向けた活動を進めます。大変ありがたいとございました。

## 地域社会から真に 求められる奉仕団体に

2015-2016年度  
国際ロータリー第2520地区  
ガバナー 菅原裕典

